

私は中小企業診断士2次試験は3度目の挑戦でした。1年目、2年目は独学で、過去問を中心に学習しました。点数開示要求はしませんでしたので、点数までは分かりませんが、結果は、事例Ⅰ～Ⅳまで、順に1年目が「BCBC」で総合「B」、2年目が「ABAB」で総合「B」でした。

過去問は10年分ほどをしっかりと学習しての受験でしたが、受験した2年はいずれの年も事例Ⅳで全く歯が立たず、「事例Ⅳの克服なしに、いつまでも合格は手にすることはできない」と、ネットでの評判が高かったMMCの門を叩くことにしました。また、3度目の受験となった今年1年は、MMCの教材以外は全く手を付けず、MMCオンリーで勝負しようと決めました。

まず、私の最大の課題となっていた事例Ⅳについて。

MMCでは、通常の答練とは別に毎週30分の財務演習が行われます。この財務演習と答練をきっちりやっておけば、本試験でも80点以上が取得ができる力は間違いなくつけられます。私が合格した年の事例Ⅳは、例年に比べ難易度がグッと下がった印象はありますが、事例Ⅳの作文問題（知識問題）を除いた計算問題は、MMCの財務演習をしっかりとやっておけば全問正解できる問題でした。

事例Ⅰ～Ⅲについては、2年目に「ABA」が取得できたこともあり、そこまで苦手意識はありませんでしたが、過去2年は独学だったこともあり、切り口やキーワード等をきちんと整理できておらず、その時の事例や問題への取り組みやすさに左右される状態だったと思います。

MMCでは、題意のとらえ方、因果を使った解答の作り方、キーワードマトリックスなど、難しい思考を必要としない、ある意味「型」が準備されており、私は講義初期にこれらを見た時点で、「これで事例Ⅰ～Ⅲについても自信をもって望める」と確信しました。

毎週の答練では、採点・添削後に返却される点数そのものにも一喜一憂もしましたが、それよりも「MMCのメソッドをきちんと使って答案を作る」ことを意識して取り組むようにしました。とはいえ、どんなに意識しても、毎週が初見の問題です。最後まで自身で満足するような解答を作れるようにはなりませんでした。回数を重ねるにつれ、点数も60点を超えていくようになり、次第に解答を作っていくのも上手になっていったのだと思います。

さて私が合格した本番の試験ですが、MMCで1年間懸命に取り組んだにも関わらず、正直、合格発表までは「不合格」を確信しておりました。理由は、

- ① 最大の課題だった事例Ⅳは、60点よりはかなりの上積みはでき、課題の克服はできましたが、難易度もかなり低下したと感じた中、単純な計算ミスが3問もあり、他の人と点数に差もつきそうもないと感じた

② 事例Ⅰ～Ⅲでは、前年受験時の手ごたえよりも、はるかに低い手応えしかなく、また、試験後に発表された各受験校の解答例とは、はるかにかけ離れた解答しか書いていなかった、からです。

事例Ⅳでの複数の計算ミスも本当に悔やまれましたが、それよりも今年は、事例Ⅰと事例Ⅲが解きづらく、あくまで個人の感想ですが、「MMC の思考や手法が使いづらかった年」だったのではなかったかと感じてました。

ちなみに私が不合格を確信していた証拠に、受験翌日からはもう目標を1年後に切り替え、本気で学習を再開してました。その位、本試験の手応えは悪かったのです。

しかし、蓋を開けてみれば結果は合格でした。正直今でも信じられませんが、合格に至った要因は、

- ① 課題であった事例Ⅳできちんと合格点(A)以上の得点を確保できた
- ② 事例Ⅰ～Ⅲ（特に事例ⅠとⅢ）で、仮に本当に「MMC の思考や手法が使いづらかった年」であったとしても、結局のところ、最後はMMC で習ったことしか解答欄には書かなかった
- ③ 解答欄は、ほとんど空欄は作らず、最後の1文字まで粘り強く加点を心掛けたことにあると思います。

事例Ⅰ～Ⅲ（特に事例ⅠとⅢ）では、私が難しいと感じた問題は、結局、他の受験者にも難しく、皆、解答に苦労したのではないかと思います。そのような中、私の解答も正解には程遠かったはずですが、「必ずしも間違いとはいえない解答 (=0点にはしづらい加点要素) をMMC の手法で粘り強くまとめていき、1点1点を積み重ねていった結果」だったのだろうと今となっては総括しております。

また、答練や模試において、私は事例Ⅳ以外で70点を超える点数はとったことはありません。模範解答を見る度に「どうして模範解答のようにきれいにまとめられないのか？」とか「この重要な与件をどうして落としてしまったんだろう？」など、毎週落ち込むことの連続でした。しかし、80分という時間の中で、模範解答のような解答を作ることはそもそも不可能ですし、何か重要な与件を落としてしまったからといって、決して満点から引き算方式でのマイナス思考に陥る必要はないと考えます。

MMC で1年間やっていればわかりますが、どのような出題であっても解答の着地点は、結局のところ毎度ほぼ同じです。これは恐らく本試験でも同じなのだと思います。マイナス思考に陥るより、むしろ、「与件と題意からは離れないようそこだけは注意し、あとはMMC でいつも使ったキーワードをひとつでも多く使い、小さな加点を積み重ねることで、結果、60点前後を確保する」というような加点思考、プラス思考に頭を切り替え解答を作っていく、これが1年間やっていく上で、精神衛生的にも良い、合格への近道なのではない

かと考えてます。

1年近くお世話になる中で、先生方には多くの激励の言葉をいただきました。そのどれもが自分の力になったと思いますが、最後に、特に力になったと今でもよく覚えている言葉を紹介します。

●徳川先生

「合格するのは5人に1人じゃない。2人に1人」

答練のアドバイス時にいただいた言葉です。

それまでは、自分も周りの受講生4、5人を見回しては、「この猛者連中全員に勝たなければ合格はないのか」と力が入ってましたが、私の2次試験受験1年目は、正直、はじめから合格レベルに達してなかったように、先生は恐らく、「そもそも合格を争うレベルは2人に1人だよ。だからそんなに恐れるな!」ということ伝えてくれたのだと思います。

●勝山先生

「見たことがない問題は、ラッキー問題!」

受験直前の先生方からの激励のメッセージで書かれてました。

「自分が難しい問題は、他の受験生も難しい。他の受験生がどっぷりはまって時間を浪費してくれるラッキー問題」とのことで、実際、受験中の心の動揺を抑えることができました。

●中居先生

「あまり頑張りすぎないでください」

受験当日の朝、受験会場でお会いしたとき、私が「頑張ります!」と言った際に返ってきた言葉です。勝山先生の言葉と同じ意味合いかと思いますが、「難しい問題でも決して必要以上に考え込む必要はない。MMCで1年間やってきたことだけを平常心で書き切ればいいんだよ」と言われたと理解し、気持ちを楽にして試験に臨むことができました。

実際、事例Ⅲのあまりの難しさに、真正面から取り組むのを早々に放棄しました。かわりに、思い切り開き直って「解答欄を埋め切ることだけ」に頭を切り替え、MMCでよく使った解答・キーワードだけをひたすら殴り書きしました。事例Ⅲそのものは決して良い点数が取れたとは今でも思いませんが、下手に難しい設問に頑張り過ぎて、他の設問の解答欄が空欄なったりすることは避けられましたし、結果、合格したのだからこれで良かったのだと思ってます。

以上